

# フルバロン®フロアブル5で マメシクイガを 徹底予防!



マメシクイガ



浸透性と移行性\*に優れ、ドローンで散布できます!

※葉内移行性や上方移行性

だいたいのすみずみまで成分が行き渡り  
重要害虫の食害を防いで、徹底予防!  
長い残効、優れた経済性。



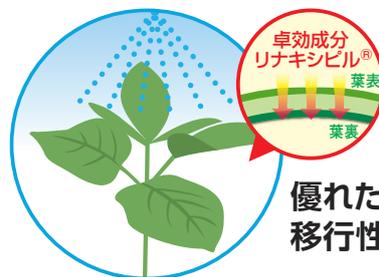
**50**以上の幅広い  
登録作物!

隣接する作物への  
考慮がしやすく  
使いやすい



**10**以上の作物に「無人航空機による散布」登録!  
ノズルの目づまりトラブルゼロ。ドローン散布に適したフロアブル製剤です。

- 特長 1** マメシクイガへの高い防除効果。
- 特長 2** すばやく摂食活動をストップ。  
長い残効と耐雨性で、しっかりだいたいを守る。
- 特長 3** 優れた浸透性と移行性。



卓効成分  
リナキシビル®

葉表  
葉裏

優れた浸透性と  
移行性

# 適期散布で、マメシクイガの被害粒を防ぐ!

マメシクイガ防除では1回目の使用をお勧めします。

だいで/マメシクイガに対する防除体系(例)

成虫の発生、産卵



卓効成分リナキシピル®が、だいでのマメシクイガに高い効果を示します。

早めに散布することで、害虫の発生始めから長く防除効果を発揮します。  
(地上散布時は展着剤を加用してください。より効果が安定します。)

優れた浸透性と移行性、高い耐雨性を有しています。

## だいで/マメシクイガに対する防除効果



2011年 北海道立総合研究機構 中央農業試験場【試験方法】◎品種:ユキホマレ ◎処理日:8月6日、8月17日 ◎展着剤加用(グラミンS 10000倍) ◎散布液量:120ℓ/10a ◎発生条件:中発生



2012年(社)宮城県植物防疫協会【試験方法】◎品種:ミヤギシロメ ◎処理日:8月29日、9月12日 ◎使用機種:ヤマハRMAX ◎散布液量:無人ヘリ散布8ℓ/ha、地上散布1000ℓ/ha ◎発生条件:少発生

## 適用害虫と使用方法

2023年7月現在

| 作物名  | 適用害虫名                                  | 希釈倍数   | 使用液量         | 使用時期    | 本剤の使用回数 | 使用方法       | クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数 |
|------|--|--------|--------------|---------|---------|------------|------------------------|
| だいで  | ハスモンヨトウ<br>マメシクイガ<br>ウコンノメイガ<br>オオタバコガ | 4000倍  | 100~300ℓ/10a | 収穫7日前まで | 2回以内    | 散布         | 2回以内                   |
|      |  | 16~32倍 | 0.8ℓ/10a     |         |         | 無人航空機による散布 |                        |
| えだまめ | ハスモンヨトウ<br>マメシクイガ<br>ウコンノメイガ<br>オオタバコガ | 4000倍  | 100~300ℓ/10a | 収穫3日前まで | 3回以内    | 散布         | 3回以内                   |
|      |  | 16~32倍 | 0.8ℓ/10a     |         |         | 無人航空機による散布 |                        |



## 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調整後はできるだけ速やかに散布してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調整してください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
  - ①散布は散布機種の散布基準に従って実施してください。
  - ②散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
  - ③散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。
- つみみ菜、間引き菜には使用しないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

## 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。

- 本剤は皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 使用の際は手袋、長スリーブ・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮ふに付着しないよう注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 蜜に対して影響があるため、周辺の養蜂にはかからないよう注意してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

## 殺虫剤分類 28

### 殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項:薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、プレバノン®フロアブル5または他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

- 害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
- (1) Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト(<https://irac-online.org/>)
- (2) <https://www.fmc-japan.com/trendinfo/irac>

●ラベルをよく読んでください。●記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。●防除日誌を記載しましょう。

